

視点

今こそ望みたい 日本型芸術文化立国

財団法人埼玉県芸術文化振興財団
理事長 竹内 文則



事業仕分けによる事実上の国家予算カットが芸術文化にも及んできた。この分野に携わる者として以下3点で政府に苦言を呈したい。第1は、芸術文化立国こそが日本の重要な国家戦略であることが解っていないことだ。ものづくり大国の時代は去り、過剰な金融で世界を支配する米国型グローバル資本主義も大破綻を来した。環境を徹底的に配慮し、人々の真の豊かさを追求する新しい経済学が模索されている現在、その根幹をなすものが芸術文化であり、300年前江戸時代に循環型社会を築いた日本人精神、暮らし方である。「芸術文化は地方に任せればよい」等国家理念が希薄なら新政権には期待できない。

第2は、日本で芸術文化政策が劣後してきた歴史的背景を理解していない。欧米は市民革命を通して20世紀前半、基本的人権として文化権を獲得した。明日の豊かな生活を確保するための公共財として国家が芸術文化に接する機会を保証する仕組みを整えた。一方革命を経験しなかった日本国民にとって勝ち取る権利としての文化権という意識は元々なかった。加えて戦前の国家による過度の文化統制への反省から国の芸術文化関与が必要以上に控えられ、初めて文化権を認知したのが、やっと9年前の2001年である。現状芸術文化分野への国家予算措置はGDP対比0.2%にも届かず欧米主要国対比1~2割水準に止まっているのに、これを大幅カットするのだから何をか況やである。

第3は、政府の関与なしにあらゆる分野で

● 世界一の芸術文化が日々創造されている事実だ。そもそも日本の芸術文化は、日本人が持つ求道精神、つまりそれぞれの分野で「道」を極め続けるクロードシステム（家元制度、秘伝、免許皆伝等）の中で自然に育まれた。四季の移ろいを微妙に体感する類い希な感性、他の追随を許さぬ手先の器用さ・繊細さ等日本人特有の能力が技、匠として凝縮される一方、誰のためでもない自身の生き様として究極の美を追求する飽くなき精神がそれぞれの「道」を芸術にまで昇華させた。一部伝統芸能の保護、人間国宝認定等除いて時の権力や政府はほとんど関与していない。

● 神業としか見えないマイクロ単位の製品製造技術、ソフトと映像の素晴らしさからサブを超えるメインカルチャーとなったマンガ・アニメ、野球道を究め一人芸術野球を披露するイチロー、動く芸術空間と認知されたレクサス現象、一見の客を断り究極のホスピタリティを提供する京都料亭等、あらゆる実用分野にも浸透する日本の製品、作品、パフォーマンスは世界最高水準の芸術、文化そのものなのだ。

● 以上を考えれば、最早文化権を浸透させ劇場、ホールに人々を呼び込み芸術文化に触れる機会を増やせばことたりる状況ではない。日本人全員のDNAに宿る芸術文化を追求する美意識を社会全体の規範にしてジャパニーズ・ウェイ・オブ・スタイルを世界に発信する政策、すなわち日本型芸術文化立国が今こそ求められる。